



多摩川シンボルマーク

# 多摩川は今

2014年度川崎市多摩川プラン実施事業報告書



宇奈根の渡し事業



水辺の楽校合同千潟観察会



多摩川丸子橋硬式野球場



KAWASAKI CITY

2014（平成26）年度  
川崎市多摩川プラン推進会議

## ごあいさつ

「川崎」という名称の由来は、「川の先」、すなわち多摩川の河口近くに本市の中央が位置していたことにあり、「川先」が後に現在の「川崎」に変化したもので、多摩川は川崎になくてはならないものであり、多くの恵みをもたらしてきた「母なる川」であります。

川崎市多摩川プランは「川とふるさとの再生、市民協働による多摩川ライフの創造」を基本理念に掲げ、「理解」・「整備」・「保全・活用」の3つの基本的視点から多摩川のあるべき姿を描いています。

2014（平成26）年度には、プランに定められた「重点エリア」である等々力・丸子橋地区周辺エリア（中原区）の整備に向けた取組みや、リーディングプロジェクトとして位置づけられた事業を中心に施策を推進してまいりました。

本書により市の取組を知っていただくとともに、多摩川へ足を運んでいただくきっかけとなれば幸いです。

2014(平成26)年度  
川崎市多摩川プラン推進会議

### 基本理念

#### 「川とふるさとの再生、市民協働による多摩川ライフの創造」

多摩川プランでは、「川崎の母なる川・多摩川」の魅力を流域を含めた一人ひとりの市民が共有し、豊かな自然環境と多様な生命が共存しうる新しいライフスタイルを創造することを目指します。

また、総合行政の展開・推進を図るとともに、多摩川についてのさまざまな情報発信を行いながら、過去の多摩川の記憶を前提として、多摩川の未来を語りながら、多摩川の課題とあるべき姿、目指すべき方向性を共通のものとし、それぞれの主体がともに役割と責任を担い、市民、企業、行政が協働しながら、より魅力的で豊かな多摩川を持続的に育てていけるしくみづくりを目指します。

### 基本的視点

#### 多摩川を『理解』する

- 多摩川の「これまで」の歴史を振り返る
- 多摩川の風景・ランドスケープデザインを考える

#### 多摩川を『整備』する

- 市民に身近な集いの場として多摩川のさらなる利用を促進する
- 運動施設としての多摩川緑地を充実する

#### 多摩川を『保全・活用』する

- 子どもたちの環境学習のフィールドとしての水辺を活用する
- 多摩川の持つ豊かな自然環境資源を活かす
- 多摩川流域での連携により多摩川を保全する

## 1 情報発信拠点の充実

### ● ニヶ領せせらぎ館（多摩区）

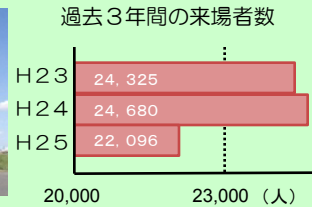
国土交通省京浜河川事務所が管理するニヶ領宿河原堰管理所の一部を「多摩川エコミュージアムプラン」の運営拠点・情報発信センターとして、川崎市とNPO法人多摩川エコミュージアムが協働で管理運営する施設です。

◇場 所：多摩区宿河原1-5-1

◇アクセス：JR南武線・小田急線 登戸駅下車10分

◇開館日：火～日曜、祝日 10:00～16:00

◇来場者数：平成26年度来場者数：約22,120人/年（平成27年2月末現在）



### ● 大師河原水防センター（川崎区）

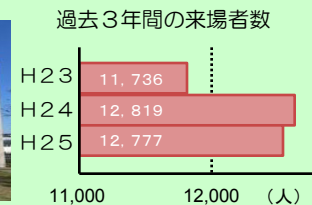
国土交通省京浜河川事務所が管理する大師河原河川防災ステーションの一面にあり、多摩川の洪水時などの防災活動、自然環境、歴史及び文化の情報発信・環境学習を行う拠点として、川崎市とNPO法人多摩川干潟ネットワークが協働で管理運営する施設です。

◇場 所：川崎区大師河原1-1-15

◇アクセス：京浜急行大師線 東門前駅下車7分

◇開館日：水・木・土・日曜、祝日10:00～16:00

◇来場者数：平成26年度来場者数：約12,100人/年（平成27年2月末現在）



## 2 多摩川流域セミナー

多摩川流域自治体と河川管理者である国土交通省、市民団体、企業や学識経験者などで構成されている多摩川流域懇談会が主催する『多摩川流域セミナー』に川崎市も参加しました。

### ● 第2回まるごと多摩川まつり

テーマ『川と海をつなぐ河口の魅力 河口から考えるこれからの川作り』

◇日 時：平成26年9月28日（日）9:30～16:00

◇場 所：天空橋駅～大師河原水防センター

◇主 催：多摩川流域懇談会

◇協 力：NPO法人多摩川干潟ネットワーク

◇参加者数：496名

- ◇内 容
- ・多摩川を歩く～河口編～
  - ・第42回多摩川流域セミナー
  - ・いい川づくり交流広場



多摩川を歩く～河口編～



第42回多摩川流域セミナー

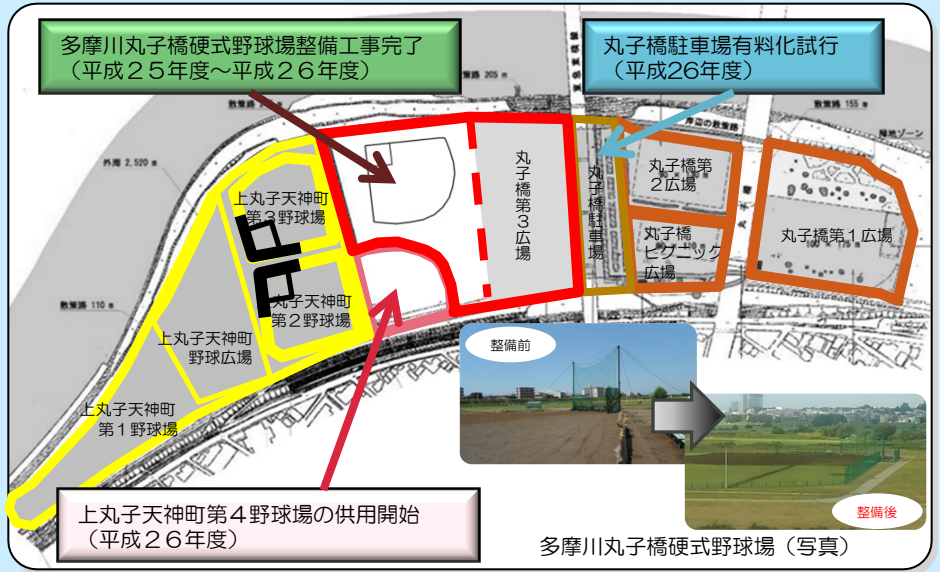


いい川づくり交流広場



### 1 重点エリアの再整備

等々力・丸子橋重点エリア整備について、平成26年度に、**丸子橋駐車場の有料化の試行**や、ふれあいネットによる**上丸子天神町第4野球場の供用**を開始しました。また、旧日本ハムグラウンド跡地の再整備が完了し、平成27年度の供用の開始を目指すため、野球場の名称を**多摩川丸子橋硬式野球場**に変更しました。



### 2 河川敷トイレの利用環境向上

従来から河川敷に設置されている汲取り式トイレは、整備から年月が経ち老朽化が進んでいることや、必ずしも快適な利用環境であるとはいえないため、簡易水洗トイレへと更新を進めています。

これまでに、17基の簡易水洗トイレの設置が完了しましたが、2014（平成26）年度には、**上平間地区**と**多摩川大橋地区**にそれぞれ1基ずつ簡易水洗トイレを設置しました。

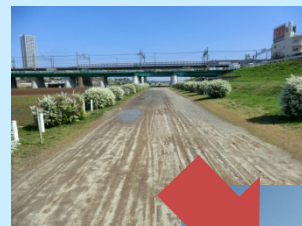


簡易水洗トイレ

### 3 マラソンコースの再整備

平成8年に完成したマラソンコースですが、経年劣化や多摩川の増水等により舗装が傷んできていることから、平成21年度より、特に傷みの激しい箇所を中心に改修しています。

平成26年度は**二子地区**において、約520mを補修いたしました。現在も、水溜り等がところどころにあるため、今後もコースの補修を進めていきます。



整備前



整備後

## 1 多摩川を利用したイベントの実施

### ● 第10回多摩川桜のコンサート

桜の開花時期に合わせて、二ヶ領せせらぎ館前広場で行うコンサートを開催しました。

◇日 時：平成26年4月5日（土）13:00～15:30

◇場 所：二ヶ領せせらぎ館（多摩区宿河原1-5-1）

◇参加者数：約500名

### ● 水辺の楽校合同干潟観察会

子どもを対象に、生き物探しなど3校水辺の楽校合同の干潟観察会を行いました。

◇日 時：平成26年5月18日（日）10:00～12:00

◇場 所：多摩川河口干潟（大師河原地区）

◇参加者数：約150名

### ● 第7回エコ★カップいかだ下り

廃材などを材料に作った、個性豊かな手作りいかだによる、多摩川下りのイベントで、環境を考えるきっかけを提供しました。

◇日 時：平成26年8月2日（土）10:00～13:00

◇場 所：二ヶ領せせらぎ館（多摩区宿河原1-5-1）

◇参加チーム数：15チーム

### ● みずウォーク川崎大会

「水辺の自然を楽しみながら健康づくり」を目的に、読売新聞社との共催で実施しました。

◇日 時：平成26年10月25日（土）10:00～16:00

◇場 所：ガス橋緑地から多摩川河川敷を歩く7～14kmのコース

◇参加者数：約400名



## 2 スポーツイベントの実施

### ● 多摩川カヌー教室

子どもを対象に、カヌー操作方法等の水上講習や水上事故に備えた救急法などの安全講習に関する知識も身につけられます。

◇日 時：平成26年7月13日（日）8:50～15:30

◇場 所：多摩川丸子橋付近

◇参加者数：112名

### ● 2014川崎国際多摩川マラソン

多摩川河川敷のフラットなコースを走る、首都圏で気軽に参加できるハーフマラソンとして人気の大会です。

◇日 時：平成26年11月16日（日）8:45～12:30

◇場 所：等々力陸上競技場から

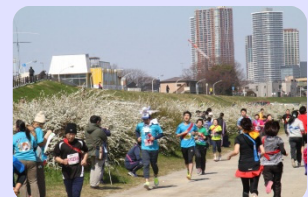
◇参加者数：6072名

### ● 多摩川リバーサイド駅伝 in 川崎

子どもから大人まで皆が多摩川のタスキリレーを楽しめるイベントです。

◇日 時：平成27年3月22日（日）7:30～14:30

◇場 所：古市場陸上競技場から



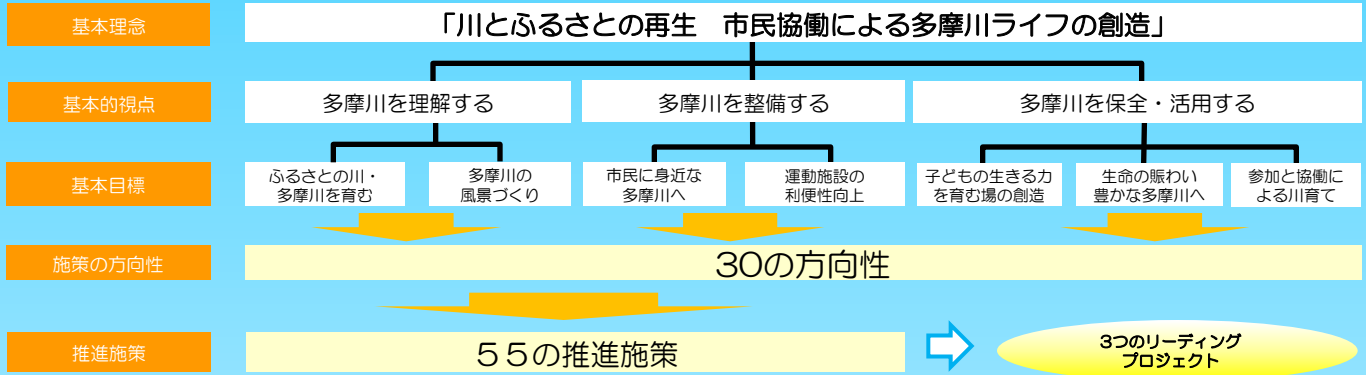


# 川崎市多摩川プラン改定に向けて

目標年次：平成28年～平成37年次

多摩川プランは目標年次を平成27年度としていることから、これまで進めてきた施策を継続・発展させていくために、社会情勢や市民ニーズに対応した新たな事業を盛り込んだ多摩川プランの改定が必要となります。そのため、多摩川プランの改定に向けてこれまでの施策の進捗状況を把握し、平成27年度に多摩川プランの改定を行い、改めて多摩川の魅力を発見し、多摩川の利活用等を図ります。

## 現行の多摩川プラン施策体系



## これまでの事業進捗状況

### 【55の推進施策ごとの評価】

- |                         |                       |                         |                          |
|-------------------------|-----------------------|-------------------------|--------------------------|
| 1 歴史的・文化的資源の体系的収集・保存    | 14 アクセスの向上            | 28 サイクリングコースの充実         | 42 生物に配慮した堰の管理           |
| 2 水文化の創造と伝承             | 15 トイレ環境の改善           | 29 施設の再配置・再整備           | 43 市民参加による生物調査           |
| 3 歴史をテーマとした学習会等の開催      | 16 駐車施設の充実            | 30 マラソンコースの再整備          | 44 生き物たちの生命賑わい豊かな川へ      |
| 4 「ふるさと資産・遺産」の活用        | 17 休息施設・緑陰樹の設置        | 31 環境学習、環境教育の推進         | 45 コンサートの開催や水辺の文化活動の推進   |
| 5 ニヶ領用水を活かしたまちづくりの推進    | 18 「川のひろば」・「川の一里塚」の整備 | 32 水辺の楽校の展開             | 46 多摩川エコミュージアムプランの推進     |
| 6 花のある川づくりの推進           | 19 「利用ルール」づくりとその展開    | 33 「河原の復権」へ向けた取組        | 47 地域連携イベントの開催           |
| 7 多摩川のビューポイントの選定・活用     | 20 パーベキュー問題の解決        | 34 水質の向上、水量の確保          | 48 多様な主体を支えるシステムづくり      |
| 8 河原風景の保全・桜並木などの復活      | 21 船着場の活用・船着場の活用      | 35 流域における緑地保全           | 49 協働型事業の実施              |
| 9 多摩川景観形成ガイドラインの策定      | 22 河川空間の新たな利用促進       | 36 水系・緑地のネットワーク化        | 50 仮称「多摩川プラン推進会議」の設立     |
| 10 川の修景                 | 23 未占用地の有効活用          | 37 流域における地下水、湧水など水循環の回復 | 51 企業と育む環境づくり            |
| 11 総合的なサイン計画の推進         | 24 ホームレスの自立支援策の推進     | 38 河口域における観察ポイントの創出     | 52 総合的な情報共有・受発信          |
| 12 川への案内、川からの案内の整備      | 25 治水の強化・防災性の向上       | 39 水質、生物、底質の調査          | 53 シンポジウム等の協働開催          |
| 13 バリアフリー、ユニバーサルデザインの推進 | 26 利用システム改善に向けた検討     | 40 多自然川づくりの推進           | 54 拠点施設の充実               |
|                         | 27 緑地施設の管理水準の向上       | 41 環境に配慮した施設整備          | 55 流域懇談会など流域間連携・交流の展開、促進 |

S：事業完了 A：通常よりも事業を進めている B：通常通りの事業を進めている  
C：通常よりも事業が遅れている D：事業中止、廃止

	S	A	B	C	D	計
個数	9	6	40	0	0	55
%	16	11	73	0	0	100

## 川崎っ子プロジェクト（リーディングプロジェクト）

- 川崎市内の渡し跡14箇所に渡し場跡の碑を設置
- 丸子の渡し復活イベントとしてボートを利用した渡し舟を復活
- NPO法人多摩川エコミュージアムによる環境学習の支援
- 環境学習用ポスター「多摩川にこう！（秋・冬）」「環境について考える」や広報紙「環境情報」を発行・配布
- 川遊びの記録と伝承を目的に、多摩川での川遊びや見所等を記した「かわさき今昔あそびマップ」を作成、配布
- 平瀬川支川改修工事による整備



あそびマップ



だいち水辺の楽校



渡し体験

## 生命の再生プロジェクト（リーディングプロジェクト）

- 自然型空間、及び生態系保持空間の保全や環境学習における植物観察などの取組み
- ニヶ領せせらぎ館の増築・大師河原地区河川防災ステーションの整備・青少年科学館の整備が完了
- 市民参加による、河川水辺の国勢調査等と連携した多種多様な多摩川の生物調査
- 環境学習、水辺の楽校での調査との連携
- アユの再生調査事業を実施
- 「かわさき多摩川アユマップⅡ」を作成、配布
- 鮎卵観察会など市民参加型イベントを実施



大師河原干潟館

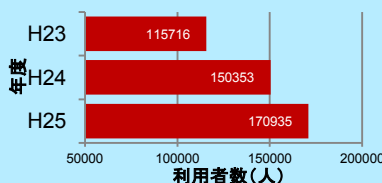


アユの遡上

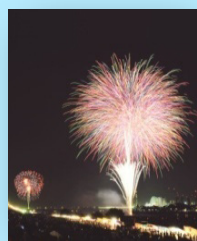
## みんなで行こう多摩川プロジェクト（リーディングプロジェクト）

- 草刈等により、利用と保全のバランスを考慮し、各団体に河原にふさわしい景観づくりへの協力を要請
- 市民団体が行う桜の植樹について支援
- 多摩川パーベキュー適正利用計画の策定
- 二子橋において有料のパーベキュー広場を開設、階段、手洗い場、水洗トイレ等の整備
- 船着場を大田区花火大会の会場として有効利用
- 等々力・丸子橋地区周辺エリアの運動施設の再配置・最適化を目指した整備

### パーベキュー場利用者数の推移



二子橋のパーベキュー場



川崎市多摩川花火大会

干潟の観察会

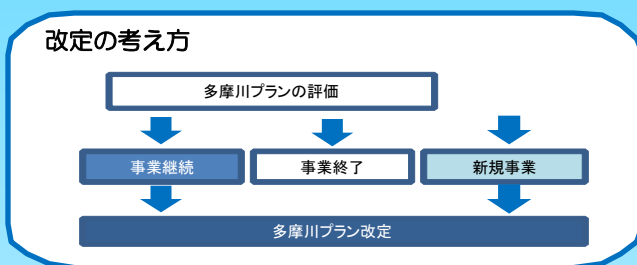
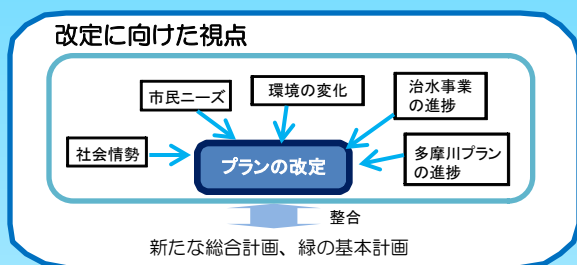
## 総合評価

リーディング・プロジェクト対象事業を中心に概ね順調に進んでおり、整備・方針等の策定事業は完了したのも多く、また拠点施設での環境学習などのイベントは毎年多くの市民に参加を頂いています。施設整備や市民活動支援は比較的順調に進んでいるといえますが、運動施設の利用システムづくりや河川空間の新たな利用方法の促進など、河川敷利用のあり方に関する検討や、企業が活動しやすいようなシステムづくりを現在進めております。今回のプラン改定にあたり、これら施策事業の進捗状況を鑑み、現状の事業を進めつつ近年の社会情勢の変化・市民ニーズの変化との整合を図る必要があります。また、市民団体活動支援などの既存事業を継続するとともに、多摩川の潜在的な価値を引き出すため、河川敷の新たな活用方策を検討し、これを活かして多様な主体が参加しやすいような仕組みづくりを行う必要があると考えています

## 多摩川プラン改定の背景と目的

現行の多摩川プランは、目標年次を平成27年度としており、これまで進めてきた施策を発展・継続させ、また近年の社会情勢や市民ニーズの変化に対応した新たな事業を推進するため、現行の多摩川プランを評価、見直しを行い、多摩川プラン（改定版）を策定します。

## 多摩川プラン改定版の策定の流れ



## 現状の課題

東日本大震災の経験を踏まえ、市民の防災に対する意識が高まっています。災害に対する多摩川の位置づけを見直し、災害に備えることなどが求められています。また、子どもから高齢者まで、多摩川を知り・利用することで、豊かな心と身体を育むため、環境学習の機会の提供、イベントの開催などが求められています。

その他、これまで多摩川プラン推進会議における意見やパブリックコメント、川崎市に寄せられた市民の皆様からの意見などを踏まえて、既往の基本目標を再編成しました。

## 改定骨子案の基本目標と方向性

施策の実現にあたっては、市民団体、流域自治体などの様々な主体と連携して、具体的な施策を推進する必要があります。施策の内容については、関係機関との詳細な調整が必要となります。また、河川管理者である国土交通省や近隣自治体と密に連携を図り、より効果的な施策の実現を目指します。

### II. 多摩川を知り、災害から市民を守る

#### 方向性

東日本大震災を踏まえ、防災の観点から多摩川へのアクセスルートや誘導案内施設などの整備を充実するとともに、**防災に関する市民の学習**を促し、**災害時における多摩川の活用**を推進します。また、市街地の安全を守るため、国など関係機関と連携し河川施設の整備を促進します。

### IV. みんなの暮らしに寄り添う多摩川へ

#### 方向性

多摩川におけるサイクリングコースやバーベキュー場、運動施設など市民利用施設の整備を推進し、きめ細やかな管理を実施するとともに、憩いの空間や災害時のエネルギーなど、多様な**市民ニーズに対応した施設整備**を進めることで、市民の共有財産である多摩川の利用環境の向上を目指します

### I. 自然と調和した美しい多摩川へ

#### 方向性

多摩川は、都市における貴重な水と緑のオープンスペースであり、その流れは「連続した空間座標軸」として都市景観を形作る主たる要素となっています。桜並木や緑陰樹などによる景観づくりや沿川の風景と調和したまちづくりを進めるとともに、**生物多様性の保全**を図ることにより、多摩川が**市民の記憶に残る風景**となるよう、より自然豊かな多摩川の再生を推進します。

### III. 市民の生きる力を育む場の創造

#### 方向性

多摩川の歴史や古来からの多摩川と市民の関わりを整理し、**環境学習に活かす**など**子育て環境の充実**を推進します。また、多摩川に関する知識が豊富な**高齢者の方**から、**多摩川を活用して知識を子どもたちに継承**するなど、豊かな心と身体の育成を目指します。

### V. つながりを深めて魅力的な流域へ

#### 方向性

多摩川沿川の流域自治体や市民、市民活動団体、企業、学校など**多様な主体が協働・連携**し、多摩川流域全体の交流を促進することにより、将来にわたり持続的な流域づくりを進め、**多摩川の魅力向上**を目指します。

多摩川は今  
川崎市多摩川プラン事業実施報告書  
2014

発行：2015（平成27）年3月  
川崎市多摩川プラン推進会議

事務局：川崎市建設緑政局緑政部 多摩川施策推進課  
〒210-0007  
川崎市川崎区駅前本町12-1  
電 話：044（200）2265  
FAX：044（200）3979  
E-mail：53tamasu@city.kawasaki.jp